

平成 24 年 3 月 11 日  
東京電力株式会社

福島第一原子力発電所 この一年  
～現場社員の安定化への取り組みと今後について～

福島第一原子力発電所は、12月にステップ2を完了し、安定的な冷却状態に至っておりますが、引き続き安定的な冷却状態の確実な維持と、廃炉に向けた中長期ロードマップの着実な実施に安全を第一にしっかりと取り組んでまいります。

事故から1年(3月11日)を迎えるにあたり、福島第一原子力発電所の安定化に向けたこれまでの取り組みと現状を現地社員の声を通じてお伝えいたします。

<インタビュー対象者：福島第一安定化センター所属>

- 副所長 いわきかつひこ 岩城克彦 「全体総括」



- 水処理設備部長 いそがいともひこ 磯貝智彦 「水処理設備の現状と課題」



キュリオン・サリーが稼動して以降、汚染水の処理は安定。水処理全体として安定しているが、気候の変動や地下水等の水の変化を監視しながら、装置のメンテナンスも継続し、装置の性能を見定めていく。

- 電気・通信基盤部長 しらかわともあき 白川智章 「電気・計装設備の現状と課題」



事故当初は、とにかく電気を生かすことに尽力した。津波から始まり台風・凍結・雷等の自然との闘い。電源の信頼性向上のための多重化に取り組んだ結果、現在では信頼性は高いといえる。

- 保安環境部長 はらくちかずゆき 原口和之 「放射線管理・防護の現状と課題」



震災直後は作業のために装備品の調達が必要な仕事。現在ではWBC等の個人線量の管理は復旧してきている。放射線防護装備品の調達状況も安定。発電所内でのモニタリングの定期的な実施が可能。